様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：２２３０１
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１２９４８

研究課題名（和文）短篇白話小説『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』の編纂過程についての研究

研究課題名（英文）A Study on the compilation process of the Chinese vernacular short story collections "Pai'an jingqi" and "Erke Pai'an jingqi"

研究代表者
笠見　弥生（Kasami, Yayoi）

高崎経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：８０８４６４３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：明末の文人凌濛初による短篇白話小説集「二拍」こと『拍案驚奇』及び『二刻拍案驚奇』について、特にその編纂過程に焦点をあてて研究を進めた。凌濛初は「二拍」所収作品において、語り手による語り、韻文、欄外の評点等様々な要素を活用して作品を構成している。物語の筋だけでなく、それらの要素にも着目することで、作者の思想や意図をより明確に読み取ることができる。それを意識しながらテキストの分析を行い、主として『元曲選』及び『亘史』の利用、『二刻拍案驚奇』巻三十の原話の取材源について調査し、凌濛初が「二拍」編纂時に参照した書籍の一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
凌濛初が「二拍」編纂時に多数の書籍を参照し、取捨選択しながら新たな作品を作り上げていった過程の一端を明らかにすることができた。凌濛初が参照した書籍がわかれば、凌濛初がどのように作品を改変したかが明確になり、作品に反映された凌濛初の思想や意図が浮かび上がってくる。更には、凌濛初が参照した書籍から、「二拍」編纂当時の書籍の流通状況や、凌濛初のような文人が手にすることができた書籍の実態も見えてきた。「二拍」にも未解明の部分が残されているほか、同時代の短篇白話小説集についても同様の検討を行う余地があり、更なる成果が期待できる。

研究成果の概要（英文）： This study focuses on the compilation process of "Pai'an jingqi" and "Erke pa'ian jingqi", also known as "Erpai". These are collections of vernacular short stories by Ling Mengchu of the Late Ming Dynasty. In his "Erpai", Ling Mengchu utilized various elements such as storytellers, rhymes, and comments outside the columns to compose his works. By paying attention not only to the plot of the story but also to these elements, we can read the author's thoughts more clearly and also closer to what he intended. With this in mind, I analyzed the text, mainly investigating the use of "Yuanqu xuan" and "Genshi" in "Erpai" and the source of "Erke pai'an jingqi" Vol. 30, to reveal some of the books that Ling Mengchu referred to when he compiled "Erpai".

研究分野：中国古典文学

キーワード：中国文学　拍案驚奇　二刻拍案驚奇　二拍　凌濛初　白話小説

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

明末の文人凌濛初による短篇白話小説集『拍案驚奇』及び『二刻拍案驚奇』、通称「二拍」は中国における小説の発展及び思想の変遷を見る上で、重要な意味をもつ作品である。

明末は、従来の社会的秩序が大きく変動した時期であったといわれ、文学の世界においては文人たちが庶民文化である白話小説に参入し、白話小説の隆盛が訪れた。凌濛初の「二拍」は馮夢龍の「三言」と共に短篇白話小説の代表作であり、長篇の代表作である『西遊記』や『三国志演義』等と肩を並べる作品である。しかも、草創期の白話小説が作者も明らかでなく、長い時間をかけて様々な人の手によって次第に完成されていったのに対し、「二拍」は凌濛初という素性の明らかな一人の文人によって完成された最初期の白話小説であり、「文人の創作による最初の白話短篇小説集」（王枝忠「凌濛初的新貢献」『東岳論叢』1994 年第 6 期）とも称される。中国小説の歴史を見る上で無視できない側面を有していると言ってよいだろう。

加えて様々な題材を扱った短篇白話小説を収める「二拍」には、凌濛初の、更には作品を醸成し、受容する社会の様々な価値観が反映され、明末の思想の多様性を読み取ることができる。たとえば、明末は女性の貞節に厳格であったといわれるが、「二拍」には既婚女性の不義や、未婚の男女の親の許可を得ない恋愛等に対する寛容さが読み取れる作品がある。或いは、他の白話小説ではさほど悪役に描かれない道教関係の人物に対し、厳しい目線を向けているように見える作品がある。こうした傾向は、現代中国の思想とも連関性をもつものであり、「二拍」の研究は、小説の発展を見るのみならず、中国の思想の発展を見る上でも重要な意義があろう。

しかしながら、「二拍」は他の代表的な白話小説に比べて十分に注目されない時代が続き、1980 年代頃から再評価される傾向が見られるようになってきたものの、その編纂過程には不明な部分が大きく残されていた。

２．研究の目的

本研究の目的は、「二拍」の編纂過程、すなわち、凌濛初が「二拍」編纂に当たってどのような書籍を材料とし、それらをどう取捨選択し、どう改作したか、を明らかにすることにあった。それによって、「二拍」の編纂者である凌濛初の創作者としての功績と、「二拍」に反映される凌濛初の思想を理解することができる。その成果は、中国における創作小説誕生の歴史と、現代中国につながる思想の変遷の一端を明らかにすることにつながると期待した。

３．研究の方法

(1)従来の研究において、「二拍」はしばしば「三言」の付属品であるかのように扱われてきた。しかし、作者が異なれば、当然ながら編纂の意図や作風、表現手法等の違いが見出せるはずである。本研究では「二拍」を独立した研究対象とし、独自の特徴を検討する。

(2)「二拍」は『拍案驚奇』と『二刻拍案驚奇』の総称であり、『拍案驚奇』と『二刻拍案驚奇』は四年の時を経て出版された別々の作品集であるが、その差異にはほとんど注目されていない。本研究では、『拍案驚奇』と『二刻拍案驚奇』との差異にも留意して研究を進める。

(3)「二拍」には『拍案驚奇』40 篇、『二刻拍案驚奇』39 篇、全 79 篇の小説が収められ、「三言」同様ほとんどの作品に原作となる記事や物語の存在が指摘されている。「三言」「二拍」所収作品の原作を明らかにする研究が盛んに行われ、小川陽一『三言二拍本事論考集成』（新典社、1981）

等はその集大成である。しかし、先行研究における諸氏の指摘は相互に矛盾していることもあり、更なる検討が必要である。関連が指摘される物語や書籍について広く資料調査を行い、凌濛初が「二拍」編纂時に参照した書籍を明らかにすることを試みる。同時に、「二拍」所収作品を個々にその原作と比較し、「二拍」に反映される思想や特徴を検討する。

なお、研究期間中に新型コロナウイルスの影響で資料調査の遂行に大きな影響が生じたため、電子データベースの購入、また各所蔵機関で公開されるようになった電子画像の活用等によって、資料調査の代替手段とした。

４．研究成果

(1) 凌濛初は「二拍」所収作品において、講釈師を模した語り手に饒舌に語らせ、時に凌濛初の思想や考えを読者に伝える役割を与えている。また白話小説の常として散文中に挿入される韻文や、作品テキストの外に配される評点も、作品の正しい読み解き方や自らの主張を読者にわかりやすく伝える手段として活用している。これらの要素に着目した上で、「二拍」所収作品を原作や類似の筋を持つ物語と比較検討することで、凌濛初が読者に何を伝えようとしたのか、更には無意識に投影された凌濛初の思想が見えてくる。これまでに発表した論文にこれらの内容を織り込み、「二拍」所収作品の構成とそこに見られる凌濛初の思想についてまとめた（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 2022 年度博士論文）。

その過程で、凌濛初が既婚女性の不義密通に対し寛容な姿勢を見せる作品を取り上げて、その背景に男性読者を意識した著作姿勢や、女性への期待の乏しさがあることを論じた「許容された不義密通 ： 凌濛初「二拍」を中心に」（『日本中国学会報』第 69 集、2017）を一部修正の上中国語に翻訳したものが、「被寛恕的私通—以凌濛初“二拍”為中心」として『雨花集』（江西教育出版社、2021）に掲載された。

(2)小川陽一『三言二拍本事論考集成』（新典社、1981）等の先行研究に基づき、「二拍」所収作品の原作について、再検討を試みた。

まず、『元曲選』に基づくとされながら検討が不十分であった作品群を取り上げ、『元曲選』以外のテキストとも比較した。その結果、作品の内容から見ても、テキストの性質から見ても、凌濛初が『元曲選』を参照して「二拍」に取り入れた蓋然性が高いことが確認できたため、論文「凌濛初「二拍」と『元曲選』」（『中国俗文学研究』第 26 号、2023）にまとめた。

続いて、先行研究において凌濛初が取材源とした書籍が『情史』、『耳談』、『耳談類増』、『亘史』と複数指摘されて矛盾を生じていた『二刻拍案驚奇』巻三十について、『耳談』に取材した可能性が高いことを確認し、論文「凌濛初「二拍」が基づいた書籍——『二刻拍案驚奇』巻三十の取材源について」（『明清文学論集』編集委員会編『明清文学論集　その楽しさ　その広がり』、東方書店、2024）にまとめた。

更に、『二刻拍案驚奇』巻三十の取材源を検討する中で扱った『亘史』という書籍と「二拍」との関係について検討し、「二拍」中には『亘史』に取材したと考えられる作品が複数あること、現存する『亘史』の版本のうちでは天啓六年の識語をもつ版本に基づいた可能性が高いことを確認し、論文「凌濛初「二拍」と『亘史』—『拍案驚奇』巻二を中心に—」（『高崎経済大学論集』第 66 巻第 4 号、2024）にまとめた。

なお、先行研究において、「二拍」中で『耳談』に取材した話が近接した巻に置かれていることが指摘されていたが（村田和弘「『耳談』と『拍案驚奇』—「二拍」の来源問題について」、『筑波中国文化論叢』12、1992)、『元曲選』や『亘史』についても同様の傾向が確認できた。この点については今後更に検討していきたい。

加えて、「二拍」における原作受容の類似例を時代や国を跨いで調査する中で、横山光輝による漫画『水滸伝』について、吉川英治『新・水滸伝』をはじめとする複数のテキストをもとにしながら、独自の改変を加えて作られたことが確認できたため、論文「横山光輝『水滸伝』に関する一考察」（『高崎経済大学論集』第 65 巻第 3 号、2022）にまとめた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 笠見 弥生	４．巻 65
２．論文標題 横山光輝『水滸伝』に関する一考察	５．発行年 2022年
３．雑誌名 高崎経済大学論集	６．最初と最後の頁 107～123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20635/00001282	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 笠見弥生	４．巻 26
２．論文標題 凌濛初「二拍」と『元曲選』	５．発行年 2023年
３．雑誌名 中国俗文学研究	６．最初と最後の頁 31～59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 笠見 弥生	４．巻 66
２．論文標題 凌濛初「二拍」と『亘史』－『拍案驚奇』巻二を中心に－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 高崎経済大学論集	６．最初と最後の頁 277～290
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20635/0002000124	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計2件

１．著者名 『明清文学論集』編集委員会編	４．発行年 2024年
２．出版社 東方書店	５．総ページ数 483
３．書名 明清文学論集　その楽しさ　その広がり	

１．著者名 羅剣波主編	４．発行年 2021年
２．出版社 江西教育出版社	５．総ページ数 1165
３．書名 雨花集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関